

彫刻刀で刻む社会と暮らし

一戦後版画運動の広がり

2019年4月10日(木)→6月23日(日) 入場無料

町田市立国際版画美術館
2019年度 ミニ企画展 1期

本展では戦後日本における社会問題や庶民の暮らしを描いた木版画を紹介します。時に鋭く世相を描き出し、また日々の営みを優しいまなざしで捉えた一連の作品は、「戦後版画運動」と呼ばれる美術運動を通して制作されたものです。

版画による社会運動と版木の普及を目指した戦後版画運動は、1930年代に中国で魯迅^{ろしん}が提唱して始まった「木刻運動」に刺激されて始まりました。日本では1940年代末から1960年代の中ごろにかけて活発に行われ、労働や基地、原子力問題などの社会問題が主題となりました。さらに生活者目線を重視し、「身近な労働者としての農家の暮らし」も数多く描かれています。

中心的な役割を担った「日本版画運動協会」は、北関東を拠点とする美術家を核として、1949年12月に発足。運動を主導したプロの作家に加え、アマチュアの「版画サークル」が全国に結成され、相互ネットワークが築かれたことが特徴です。また中国、アメリカで展覧会を開催するなど国際的交流も盛んに行われました。

当館では日本版画運動協会の事務局を務めた三井寿^{みつひさし}(1921～1988)が町田市在住であったことを縁に、版画運動に関する作品・資料を多数所蔵しています。さらに活動の中心的な役割を担った上野誠^{うえのまこと}(1909～1980)、小野忠重^{おのただしげ}(1909～1990)、鈴木賢二^{すずきけんじ}(1906～1987)らの作品も収集してきました。

本展では、「社会を描く」、「暮らしを描く」、「それぞれの視点から」、「全国への広がり－地域のなかへ」、「時代を超えて－〈タンポポの種子〉のように」という5つのテーマから戦後版画運動を捉えることを試みます。特に以前から紹介されてきた社会や暮らしを描いた作品に加えて、今回新たに行った現地調査の内容を反映し、これまで紹介される機会が少なかった女性作家による作品を展示。さらに北関東に留まらない全国的な広がりを示す一つの事例として、長野県南佐久郡での版画サークルの活動も紹介します。

近年、木版画による社会運動はアジア全体における広がりが紹介され、ソーシャリー・エンゲージメント・アートの文脈や学際的な関心からも注目されるなど、新たな光があたりつつあります。30点余りの展示ではありますが、当館収蔵品を通して戦後版画運動の広がりについて一層多くの方に関心を持っていただく機会となれば幸いです。

No.	作者・団体名	生没年	作品名・資料名	制作・発行年	技法	寸法 (mm)
1	刻画会	—	『刻画』No.2 (表紙、奥付)	1947年 7月15日	木版、 謄写版印刷	300×500
社会を描く						
2	上野誠	1909 - 1980	メーデー	1952年	木版	152×213
3			第五福竜丸 焼津港にて	1954年	木版	243×302
4			ヒロシマの空の下	1959年	木版	300×400
5	新居広治	1911 - 1974	『水兵物語』(全50点)	1952年頃	木版	各 75 × 104
	参考パネル		『日本版画新聞』 No.10 新居広治「連かん畫 水兵物語(一)」 (日本版画運動協会)	1952年 9月31日 [ママ]	—	—
6	押仁太	—	『花岡ものがたり』 (日本中国友好協会文化部)	1951年 5月30日	木版、 活版印刷	127×183
7	新居広治	1911 - 1974	農婦(砂川)	1956年	木版	524×387
8			[炭鉱労働者達]	1950年代	木版	166×238
9	鈴木賢二	1906 - 1987	「首切り全面テッカイ！」ポスター	1950年代	木版	545×375
10	小口一郎	1914 - 1979	波紋	1960年	木版、 手彩色	256×508
	参考パネル		『日本版画新聞』 No.22,23 上野誠「春の文化祭 全市を盛り上げた4Bサークル」 (日本版画運動協会)	1955年 4月1日	—	—
	参考資料		『BBBB』 No.1 (4B美術研究会)	1955年 2月1日	謄写版印刷	—
11	飯野農夫也	1913 - 2006	平和へのデモ	1961年	木版	400×490

暮らしを描く						
12	中山正	1927 -2014	農夫	1951年	木版	278×233
13	滝平二郎	1921 -2009	『むすめたち』より むすめ	1953年	木版	136×99
14			『むすめたち』より 麦畑	1953年	木版	98×128
15	鈴木賢二	1906 -1987	益子焼くすりかけ之図	1956年	木版	330×243
16			母と子	1961年	木版	750×950
17	三井寿	1921 -1987	老農座像	1971年	木版	490×550
18			じゃりっぴき	1970年代	木版	370×320
19			路傍のほとけ(花をもつ地藏) 2	1970年代	木版	700×460
それぞれの視点から						
20	呉炳学	1924 生まれ	『メーデーフラカードの作り方』 不戦! アジア	1952年頃	木版	118×140
21			[故郷の人々]	1950年代	木版	137×105
22			[農作業での休息]	1950年代	木版	140×184
	参考パネル		『日本版画新聞』 No.9号 呉炳学「朝鮮の田舎路」(日本版画運動協会)	1952年 7月31日	—	—
23	朴史林	不明	[肅清]	1950年代	木版	135×169
24	小林喜巳子	1929 生まれ	一日本人の生命	1954年	木版	378×539
25			私たちの先生を返して —実践女子学園の斗い—	1964年	木版	530 × 1000
	参考パネル		『日本版画新聞』 No.8 「はじめてアメリカで開かれた 日本新版畫展」	1952年 6月30日	—	—
	参考資料		『婦人之友』 久保守「美術に志す人々へ」(婦人之友社)	1951年3月号	—	—
	参考パネル		『日本版画新聞』 No.18,19号 小林喜巳子「一日本人の生命-制作者として」 (日本版画運動協会)	1954年 12月1日	—	—
地域のなかへー全国への広がり (長野県南佐久郡で活動した版画サークル紹介)						
26	油井正次	1908 -1998	土地取上げ反対運動	1954年	木版	288×404
27	歌と版画の会	—	『歌と版画』 No.1,9,10,11,再刊1号	1950-1953年	木版、 謄写版印刷	—
28	カギカケ版画 サークル	—	『うたごえ』 No.8	1951年 10月8日	木版、 謄写版印刷	—
時代を超えてー〈タンポポの種子〉のように						
29	大田耕士	1909 -1998	『刻画』No.3 喚声	1948年5月	木版	210×145
	参考パネル		『日本版画新聞』 No.9 大田耕士「彫刻刀の名前-刀の名称の統一について-」 (日本版画運動協会)	1952年 7月31日	—	—
	参考資料		諏訪地方文化研究会編『諏訪』 10号 増沢荘一郎「諏訪版画小史-版画教育十五年の歩み-」 (甲陽書房)	1970年5月	—	—
	参考パネル		『版画運動通信』 No.5 滝平二郎「手刷り出版物に簡単に応用出来る カップ版について」(日本版画運動協会)	1951年 11月25日	謄写版印刷	—
	参考パネル		『日本版画新聞』 No.22,23 滝平二郎「実験器具 これは重宝 見当板」 (日本版画運動協会)	1955年 4月1日	謄写版印刷	—
	参考資料		上野誠『生活版画』(明治図書)	1956年	—	—
	参考資料		小野忠重『木版画 材料と技法』(美術出版社)	1956年	—	—
	参考資料		小野忠重『版画技法ハンドブック』(ダヴィッド社)	1960年	—	—
30	竹田鎮三郎	1935 生まれ	インディアン部落	1957年	木版	368×460

* No.25,27,28 は個人蔵、他は当館所蔵

<p>浮世絵玉手箱 常設 1期 水野年方(1866-1908) 『三十六佳撰』(版元 秋山武右衛門)より 侍女 宝徳頃婦人 明治27年(1894)大判錦絵 菖蒲 延宝頃婦人 明治26年(1893)大判錦絵 汐干 文化頃婦人 明治26年(1893)大判錦絵</p>	<p>町田ゆかりの作家・畦地梅太郎(1902-99) コーナー 『日産カレンダー』 1957年、木版多色 街 271×268mm 一年生 270×267mm 田植え 268×262mm ドライブ 304×300mm</p> <p>町田市立国際版画美術館 2019年4月10日発行 〒194-0013 東京都町田市原町田4-28-1 Tel 042-726-2771 HP http://hanga-museum.jp 公式ツイッター @machida_hanbi</p>
--	--